平成28年2月1日
第105号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 黒瀬和美
電話 972・5819

氷点下5度 寒波に作業を断念


昼前後でも氷点下を上回らない厳しい寒さ（1月24日）


19日の朝の雪、八方原の東の山々

八方原の環境を守る会の共同作業を予定していた24日、朝から厳しい冷え込みと積雪となりました。そしてこの記録的な寒波に、山口市周辺は大雪警報が発令となり、屋外での作業は控えるように呼びかけが始まりました。

これでは作業をすることに支障があると判断して、今回の共同作業は延期としました。

予定では、水路の目地にバックアップ材となるウレタンチューブを押し込み、その上にシリコン充填剤を詰めて、水路から圃場への水の流出入を止めるための作業を多くの方々のお力を借りる予定でした。

今回の作業については、また新たにご案内をいたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

事業の変更やむなし

本年度は、揚水ポンプからの送水管の調査をする予定にしておりましたが、事業の内容と交付金の主旨とが合致しないという指摘を受けました。当会として将来的な破損や事故を未然防ぐための「長寿命化」という立場で計画していましたが、調査だけの事業は認めないということです。

従いまして、従来からの水路改修を延長するような事業を行うことになりました。

消防人の仕事始め



号砲とともに持ち場に走り、機器の操作開始

10日午後3時から、東津河川公園で小郡地域消防合同訓練（出初め式）が行われました。毎年、小型ポンプを使った放水標的落としが行われます。昨年度は惜しくも入賞を逃したので、雪辱を期して参加しましたが、他のチームの成績が、いずれも予想以上に良く、また来年の奮闘を期待することとなりました。


虹こそ架からなかったけれど、力強い放水

最後に一斉放水を行いました。消防関係者の決意の表示と同時に平穏な一年への願いでもあります。

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

駅伝でチームワークを実践

第11回山口市駅伝競走大会が17日、きらら博記念公園で行われました。八方原地区のランニング仲間のチーム「チームハッポウ」は今年も参加しました。

今大会には229チームがエントリーを行い、延べ参加者は1500人を越えるという規模となりました。チームハッポウは、各地区体育協会や高校生と一緒に争ういわば競争指向の一般1部で、出走は87チームでした。



スタートから周回コースに出てきた。中央の４人の中で真ん中に位置するのが裕基君。彼は２部にも出走し、この区間で区間賞を獲得した。

レースは西京高校のチームが先頭を走る予想通りの展開です。第1走の原田裕基君は最初から先頭集団で好走、5位で原田昌通君に襷をわたします。

昌通君は「今年が最後のつもりで頑張る」という意気込み通り、最初から全力疾走。部門では9位で、第3走の國田純一君に託しました。



倒れ込むように飛び込んだ昌通君「純、頼む」

駅伝は実際に走ってみると襷を次につながなくてはという想像以上のプレッシャーがあります。國田君は、仕事の関係で十分な練習ができないままでしたが、元来の粘りの走りで、もう一人のベテランランナー原田広文君につなぎました。広文君はまさに飄々といつもの練習のように駆け抜け、アンカーの国本康喜君に襷をわたしました。



「最後だ、国本君」「オーライ、任せて」

国本君は昨年末から、めきめき走力をアップし、フルマラソン3時間以内の、サブスリーランナーの仲間入りをしました。スプリントの能力は出場選手の中でも指折りでしょう。

ゴールのきららドームの中まで、前を走るランナーを追い詰めます。最後のスパートは残り2メートルで逃しましたが、54分19秒の17位でゴールインしました。

また大会の一般2部では、ＪＡ山口中央チームとして、杉山均さんも出場しています。

大会に出場するに当たり、自治会からのご協力や、ご声援を頂きました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

チームハッポウ監督　原田茂樹



石田自治会長も一緒にチーム全員でポーズ